

タウンミーティング 会議録

日 時：平成22年11月26日（金） 19:00～20:36

場 所：中央公民館（浦山）

テーマ：1. 小中学校の再編について

2. 自然エネルギーの利活用について

3. 水博物館（地域観光ギャラリー）の整備について

参加者：57名

【事務局】

ご苦労さまです。

ご案内の時刻になりましたので、只今から平成22年度黒部市タウンミーティングを開催いたします。

今年も昨年同様に市内4つの中学校校下ごとに開催することとしておりまして、本日は初日であります。

今回のテーマにつきましては、一つ目が「小中学校の再編について」、二つ目が「自然エネルギーの利活用について」、三つ目が「水博物館（地域観光ギャラリー）の整備について」、以上3つのテーマであります。

最初に市長からこのテーマについて、約20分ご説明申し上げます。その次に、会場の皆様方からテーマについて順次ご意見、ご提言をお受けいたします。

なお、終了時間は8時30分ごろを目途として進めていきたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

また、先ほど受付でアンケート用紙をお配りいたしました。この場でご発言できなかった皆様からも自由にご意見をいただきたいと思いますので、日頃から感じておられることをご記入いただきまして、お帰りの際、受付で回収させていただきますので、よろしくをお願いいたします。お寄せいただいた意見につきましては、今後、市政運営の参考にさせていただきます。

それでは、堀内市長からごあいさつとテーマに関して基本的な考え方を述べさせていただきます。

【市長】

本日はお仕事のあと大変お疲れのところ、このようにたくさんの方にご参加を賜り、誠にありがとうございます。

また、日頃から黒部市政の進展のために、各般にわたって大変ご理解ご協力を賜っておりますことに対しましてこの場をお借りしまして感謝申し上げます。

そしてまた、今年もこのタウンミーティングの開催にあたりまして、各地区の自治振興会並びに町内会の役員の皆様方を中心に大変ご協力を賜りましたことに対しましても感謝を申し上げます。

さて、黒部市は合併いたしまして5年目に入っております。また新しい黒部市のまち

づくりの計画であります総合振興計画がスタートして3年目ということでもあります。たかさんの重点課題があるわけではありますが、ここまでは概ね順調に推移することができているのではないかなと喜んでおります。政権交代等の影響、あるいは円高等による景気の低迷などの影響もありますが、この重点プロジェクトを着実に推進することが、大変重要ではないかと思っていますところであります。

また、この地方分権がさけられているなかで行政と市民の皆様方とのこの責任と役割というものを共有しながら協働のまちづくりを進めていくことが大変重要であると考えておりました、この協働のまちづくりのガイドラインを作成させていただいたところであります。この考え方につきましては、これからまた、地区の皆さん方に充分ご説明をさせていただいて、協働のまちづくりをまた一緒に進めていきたいというふうに思っておりますので、その点も今後ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げたいと思います。

それでは、時間も限られておりますので本日のタウンミーティングのテーマについてご提言を申し上げたいと思います。

詳細については、「課題提起」をご覧ください。

【事務局】

それでは、ただいまから、本日のテーマに関して会場の皆様からのご意見やご提言をお受けいたします。係の者がマイクをお渡ししますので、地区名、お名前に続きご意見等を述べていただきます。

もう一つお願いがあります。このタウンミーティングでは、限られた時間の中でできるだけたくさんの方からご意見をいただきたいと考えておりました、ご発言はなるべく簡潔に、お一人3分以内でお願いしたいと思います。

それでは、あらかじめご発言を申し込まれました下立地区のAさんからお願いいたします。

よろしくお願いいたします。

【Aさん】

今、ご紹介いただきました下立のAでございます。

今日は、市長の熱弁をただいま聞いた訳でございますけれども、まず、小中学校の再編についての質問ですが、細かくなりますがご了承願いたいと思います。

まず1つ目は、黒部市内の現在の小中学校の校舎数と各生徒数について、最近5年間のデータを示していただきたいと、それから2つ目は、今後、23年度から平成27年までの生徒数の推移、小中学校別に聞きたいと、これは推定、予測でございますけれども。それから3つ目は、現在、国、文科省等や県などで行っている、学校経営の適正な水準といいますが、国の基本方針についてはどうなっているのか聞きたいです。それから4つ目は、魚津、滑川、富山市等の学校の統合状況、これはどうなっているのか。それから、統合を早くやれば国の補助額が余計にもらえるかどうかということだが、あるいは、学校統合すれば、メリット、デメリットが出てくるわけですが、いろいろな地域のしがらみ等もあ

りますので、そこらあたりの調整をどういうふうに持っていかれるのかということ。ちょっと細かいですけど、5つ。

それから、水博物館につきましては、中沖知事以来、入善町と黒部市が綱引き状態みたいになっていることを聞いているわけでございますけれども、今後も相譲らぬ状況もありますので、入善には負けないような施策を講じなければならんと個人的には思うわけでございますけれども、そこらあたりの調整は今後どうなさるのか。ゴーイングマイウエーでなさるのか、そこらあたりをお聞かせお願いします。

以上です。

【市長】

ありがとうございました。

Aさんからは事前に質問の用紙をいただいておりますので、今ほど言われました、現在の黒部市内の小中学校の校舎数と生徒数等につきましては、事前に資料をつくって入り口でお渡ししましたので、それを見ていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

次に、国や県が目指しております学校経営、特に、1校当たりの児童生徒数についての基本方針についてであります。国では、学校規模につきましては小中学校とも12学級以上18学級以下、小学校1学年当たりは2学級以上3学級以下、中学校では1学年当たり3学級から4学級以下というのが基準として設定されております。また、学校再編につきましては、国が定める標準をもとに、都道府県の教育委員会が定めるということになっておりますので、本県におきましては、1クラスの児童生徒数は40人、ただし、小学校の1、2年生と中学校の1年生に限りましては35人。複式学級につきましては2つの学年で、富山県の場合は15人以下ということに決まっております。

さらに、後のほうの質問でありました、学校統合に係る国の補助制度はどうかというご質問であります。統合が必要となりました校舎等の新增築に要する経費や、教職員の定数の激変緩和措置、あるいはスクールバス等の、国庫補助等が設けられておりますが、学校を早く統合すればメリットがあるかというご質問であります。そういう時限的に手厚く支援したりするというメリットは全くないということでもあります。本市におきましては、先ほど説明しましたように、学校教育基本計画に基づいて、小中学校の再編の中長期プランとして立てて、今後、進めていくというのが基本的な考え方です。

あと、もう一つは、水博物館のことで、隣の入善町さんとの調整はどうしているのかということですが、先ほどご質問いただきましたとおり、かなり以前から水博物館としてのコア施設、情報発信の拠点施設として入善さんと黒部市が綱引き状態であったわけがあります。なかなか、そういうことではそれぞれ結論が出なかったものですから、そこで、先ほど申し上げました考え方に少し切り口を変えております。それは、コア施設をつくるということではなくて、あくまでも、黒部川流域、黒部川扇状地を中心としたフィールドミュージアムに参加をさせていただくための、情報の発信、動機づけをするためのフィールドミュージアムの玄関口としての水博物館を、ぜひ、整備したいと考えておりました。黒部市とすれば、新幹線の時代に新駅が黒部市に設置されるわけですから、ぜひ、その地域観光ギャラリーの2階の部分でそういう情報発信基地を設けて、もちろん、県の支援はいただいて、そこからフィールドミュージアムに参加していただくという考え方で

ありますので、玄関口ですから、西口があったり東口があったりというのは当然でありまして、そういう意味では、入善町さんのほうで、ぜひ、そういうような考え方で、入善町さんもやりたいということであれば、入善町さんにも1つの玄関口をつくるということで整理されればいいだろうと思っています。そういう意味では、どこかに、どちらかに1つというような考え方ではなくて、玄関口ですから、あくまでも黒部市は新幹線の駅に1つの玄関口を設けていきたいと考えて、今、その辺の調整をさせていただいたところです。ですから、綱引き状態ではないというふうに考え方を少し変えてまいりたいと。

【事務局】

Aさん、よろしいでしょうか。
そのほかございませんか。

【Bさん】

音澤地区のBです。よろしく申し上げます。

まず、統合について。若栗小学校から宇奈月小学校に通うという方法、全部じゃなくても、入れる方法はないでしょうかというのがまず1つ。

それと、小水力発電についてなんですが、小水力発電じゃなくて、マイクロ、ミニの発電のほうを、こういったものをどう考えているのか。まず、端的に言いますと、当音澤地区に風力と太陽光の発電の照明がありますが、これ、もう、電気がつかなくなっているんですね。こういったものを何か、マイクロで40万程度で保安灯、信号灯をつけられる装置があるんですね。そういったものの活用を押し図っていく考えはないのか。

それと、水博物館についてですが、吉田科学館とか宇奈月ダムの管理棟とか、今、言われたものの、例えば、吉田科学館の中で、山からだったか、海からだったか、3Dの映像とかありますね、これ、大変すばらしいものだと思うんですが、こういったものがダブるんじゃないかと。そういったものの活用をどう考えていくのか。3点よろしく申し上げます。

【市長】

ありがとうございました。

最初の学校の再編の話で、若栗から宇奈月のほうに生徒をあげたらどうかという趣旨です。今のところ、学校教育基本計画の中では、先ほど言いました、東布施、田家の統合、あるいは、前沢と三日市、そして、若栗地区につきましては、荻生と若栗で将来的には統合を検討するというように考えておりますので、それは、近い将来、そういうふうに検討させていただいて、さらなる今後という時代が来れば、宇奈月と若栗地区と、あるいは、それまでには荻生、若栗の統合が、もしかしたらなされておる状況だと思っておりますので、さらなる今後のときにはそういうことも考える必要もあるのかと思っております。

また、宇奈月地区につきましては、皆様方の大変大きなご理解で、4校が1校でということで統合がなされております。今、先ほど言いました宇奈月中学校が、非常に生徒数が減少している中で、いろんなご意見が出ているようでありますので、中学校を今後どうするのかというようなことについても、もしかしたら、小学校と一緒に考えていくことも必

要なのかなというようなことも、意見としてもお聞きしております。

次に、小水力発電で、マイクロ発電の話がされました。あくまでも、先ほど言いました宮野用水を利用した小水力発電につきましては、ああいう計画でございますが、そのほかにもいろんな用排水を利用した、100キロワット以下のマイクロ発電につきましては研究していきたいと思っておりますし、水利権等の問題が解決できれば、積極的にやっていきたいと考えております。その中で、音澤親水公園にある風力と太陽光の設備が壊れていることは、私は理解していないんですが、せっかくつけたものでありますから、まだ耐用年数があるものとすれば、それらを修繕していくということが、使える状態にするということが必要かなと思います。ぜひ、見させていただきたいと。

【Bさん】

ぜひ、それか、費用がかかるようでしたら今言った40～50万円という検討もお願いできたらいいかと。

【市長】

それは、マイクロ発電の、マイクロ小水力発電の話ですね。

水利の問題が解決できれば、そういうことも、ぜひ、進めていきたいと思っております。

それから、新幹線の駅舎のところに計画しております水博のことにつきましては、規模をまず言わせていただきますと、これが新幹線の駅舎であります。この駅舎につきましては、鉄道・運輸機構といいますか、国が整備するものであります。これが、長さが310メートル、直線でここからここまでがある、そういうようなスケールであります。これは、国が整備する。そして、ここに地域観光ギャラリー、都市機能、例えば、観光案内とかお土産売り場だとか、休憩場所だとかそういうものを、こういう地域観光ギャラリーとして黒部市が整備することになります。ここに三角形で描かれておりますが、ここが、実は、1階が600平米、そして2階も600平米の総2階みたいな格好になっております。その2階部分の600平米の部分に、フィールドミュージアムの玄関口としての情報発信基地をつくりたいということですので、当然、吉田科学館などで行っておりますプラネタリウムなど、大きな映像を使ったようなものとは違い、この600平米を利用して、この黒部川流域のいろんな自然とか水文化、そういうものに関心を持ってもらうための、あくまでも情報発信基地で、そこで興味を持ってもらって魅力を感じてもらって、実際にそれぞれのフィールドに出ていただくということですので、吉田科学館とのバッティングは当然しないように工夫していきたいと思っております。

【事務局】

Bさん、よろしいでしょうか。

【Bさん】

早急に、親水公園の現場を見ていただくようお願いいたします。

【事務局】

ほかにございませんか。

【Aさん】

釈迦に説法かもしれませんが、現在、宇奈月温泉の宿泊、観光客は、私どもがつかんでいる情報収集では、大体、50万人の人が来ておられるだろうと、そのうち、6割の30万人ぐらいが温泉で宿泊なさっておるようです。それから、4割の20万人ぐらいは、ごみだけ残して帰られる方もいます。何が言いたいかといいますと、今、新幹線のない今、バスと自家用車でほとんど観光客が来ておるんですね。例えば、逃がしている20万人を、どこでとめるかというのが黒部市の観光に対する急務じゃないかと思われるところです。どこに関所をつくるかと、私は、関所は民俗資料館と麦酒館のところが関所じゃないかと思うんですね。その関所にも、やっぱり、今言われておるようなミュージアム的なもの、そのためには、民俗資料館を十分に活用すべきではないかと。そして、今現在ある図書館等も水博に関するような資料、展示物を活用し、そして、あこにも大型スクリーンがあるわけでございますけれども、可能な限り黒部の出店という、振興ミュージアムの出店的なミュージアムとして、ギャラリーとして活用していただければいいものかと。そうすることによって、今度、新幹線で観光客が来るにしましても、年間、私も佐久駅とか上毛高原駅とかの例を見ておりますと、二、三年で、非常に閑散としておるわけですし、やはり、将来も8割方はバスと自家用車で観光客が来るじゃないかと。そういった場合に、新黒部駅にわざわざ見に行くかということも考えられるわけございまして、やがて、中心的な麦酒館周辺のほうにも手をかけていただいて、そこらあたりとキャッチボールをしながら、あるいはまた、宇奈月温泉、峡谷鉄道駅前にある関連の電力館もございまして、ああいうものとも連携すべきじゃないかと。

そして、特に、水は、第2の石油とも言われて、中国の人たちも非常に関心を持っておるわけですね。東京都とか京都とかああいうところは、水道局が水博物館を経営しておるわけございまして、まして、そういうものを市自ら、東京都自らが水道水はどうかと、そういう意味では逸脱しますが、黒部市も、天下に誇る名水を黒部市みずから事業化して雇用を増やす、財源を増やすと、そういう方向に持っていくためにも、1つの企画になればなと思っておるわけございまして、そこらあたり、今後のことを聞かせたいと思います。

【市長】

ありがとうございました。

麦酒館周辺の民族資料館、友学館の活用といいますか、これは非常に大事だと思っております。あそこの中にあります刳橋の2分の1の模型なども、もう少したくさんの方に見てもらいたいと思っております。あそこをもっとたくさんの方が訪れていただけるような工夫をするように、担当課には前々から話をしております。そこで、気になっておるのが、人をたくさん呼んでにぎわいをつくっていかねばならない民俗資料館と、静かに勉強する図書館が併設されていること自体が少しどうかと、見直す必要はないのかなと考えております。今、黒部市は、総合振興計画の中で、後期の基本計画の総合計画の中で、図書館についても今、改築する計画をしております。そういう中で、現在の宇奈月図書館について、今後この民俗資料館の中の友学館のところの図書館機能をどういうふう

するか。今ほど言われた、水とか自然とか山岳とか、そういうものを中心としたものに見直して行って、あくまでも、あの施設はにぎわいの施設と方向づけをするのか。だとすれば、静かに勉強したり、本を読書したりする図書館機能なるその部分は、どのようにするのかというようなことは、生涯学習のほうには検討するように前から指示してありますし、図書館の改築にあわせてそれらのことも、ぜひ考え方を整理していきたいと思います。何せ、友学館は、あくまでもにぎわいの施設としてもっともっと活用をしていくべきだろうと思います。

それから、新幹線の駅舎のところの、駅舎の利用者数の話がありました。今現在は乗降客が、1日当たり2,700人の想定があります。これは、適当につけたわけじゃなくて、いろんな調査のデータの中でそういう想定をしておりますが、それを、さらに利用者を増やすということが大切であると思っております。そのためには、新川地域だけではなくて、立山町とか上市の方が、東京方面に、新幹線で行くときに富山駅を利用されるのか、あるいは黒部駅を利用されるのかということも工夫をして、上市、立山、滑川の人たちも東京方面に行く方は、新幹線黒部駅を利用していくという取り組みが大事なかなと思います。さらに、当然、黒部峡谷、宇奈月温泉の玄関口でもあります。立山黒部アルペンルートの玄関口でもあるということの位置づけと、そういうような取り組みをするということが大変大事。新黒部駅から立山黒部アルペンルートへも便利なバスなどが出ているということも考えていかなければならないかなと思います。

それから、関電さんの電力館の話もされましたが、とにかく、フィールドミュージアムの玄関口では、そういうことも含めて、この地域全体の観光資源とかそういう魅力を発信していくということにつなげたいと、あくまでもここを拠点に各地区に出向いてもらうという考え方でありますので、そういうものとうまく連携していきたいと思います。

水の事業化については、名水の里黒部市とすれば、あまり際立った取り組みはないですが、ここにありますような黒部モルト麦茶など、名水を生かしたこういう商品がたくさん出ればいいかなと思います。こういう商品化する水の産業というのは、ほんとうに水もので、なかなか、採算がとれるというようなところが難しいところがございます。そういう点では、お酒になったり麦茶になったりというところはあるんですが、水そのものを目指すということについては、時々話としては聞きますが、これから研究していかなければならない。中国の、地下水なり水の話は、そういうことは非常に心配することではありますが、そういうことにならないよう、中国に、地下水なり日本の真水をみんなタンカーで持っていられるようなことにならないように、それは十分気をつけていかなければいけないのかなと思います。

【事務局】

Aさん、よろしいでしょうか。

そのほかにございませんか。

【Cさん】

愛本のCでございますけれども、フィールドミュージアムに関してですけど、以前の水博物館構想がフィールドミュージアムに格上げして、この話、色々と進展とかそういう話

を聞いていると、その玄関口、すごく立派な玄関口をつくらうとしておられるような気がするんですよ。巨大映像装置とか、何か、いろんな出てくると、何て立派な玄関だと、ここに来る人は、玄関だけ見て帰っていくんじゃないかと、そういう懸念がするんですよ。実際、こんな高価なというか、金をかけてそういう設備をつくる必要があるのかと、そういう疑問を持っています。そのほかに、地域住民が集う広場もつくるというそういうあれも入っていますけど、今度つくられる新庁舎にもそういうスペースをつくるという計画もあるって聞いています。それはまだ決定していませんけど、そういう構想も入っているって聞いていますので、それ、地域住民が集まるところをあっちにもこっちにもつくったら、かえって分散してしまうんじゃないかって、そういう懸念を感じておるんですね。ですから、ほんとうの玄関だけにしてほしいんですよ。その中で詳しい説明をするのは、そこにいるガイドさんとか、地域ガイド、地域学芸員とかそういう人たちが説明するのが実際であって、この建物とか設備で見ても、みんなわかっているような気になっているけど、実際、実物を見ないわけですから、わからないわけですね。だから、その辺、ある程度のものにして、実際、現場に出ていくというふうな、現場へ行って実物を見てくると、そういうような内容のものにしてほしいと思います。

以上です。

【市長】

ありがとうございました。

大変、大事な視線だと思っております。ですから、先ほど言いました600平米の中で、やれる範囲で、しかも、そこですべてが体感できたり、完結したりしないように、とにかく現場へ行ってもらうことが一番大事だと思いますので、映像とかバーチャルとかということを行いました。その辺の兼ね合いというのは非常に大事なところだと思います。そこで、県の支援をいただいて、我々はこの黒部川流域の自然とか水とかの魅力というのは、ある程度わかっていると思うんですが、全くそういうふうな具体的なそういう魅力についてわからない方も、当然、訪れられますので、その人たちに興味を持ってもらったり、現場に足を運んでもらうには、ある程度のことはここで期待させねばならないのかなというふうに思います。

さらに、最近では、自然とか地下水という話もちろんありますが、この宇奈月地区から出ておりますジルコンの話なども、37.5億年前のジルコンがいかなるものかと、また、そこには、日本で最も古い鉱物も見つかったけれども、日本で最も新しいに近い花崗岩なども一緒に同じところから見ついていることの謎みたいなものとか、そういうものを見て、知っていただいて、この黒部川流域全体に関心を持ってもらって、宇奈月温泉とか黒部峡谷をまた訪れていただく。そういう、とにかく、魅力の情報を発信すると、そして現場に訪れていただくことがとても大事だと思いますので、十分その点は注意しながら整理してまいりたいと思います。

新庁舎の話もありましたので、市庁舎の市民スペースというものは、これも大変大事だと思いますが、これもそんな大きな規模ではありませんので、建築面積の15%ほどをそういうものに充てて、市民の皆さん方が集える場所であったり、憩える場所であったりというようなものを整備するというところでありますので、あっちにもこっちにもそういうもの

ができるというような、そういうことにはならないように注意していきたいと思います。

【事務局】

Cさん、よろしいでしょうか。
そのほかございませんでしょうか。

【Dさん】

下立のDですが、先ほど、市長からの説明がありましたフィールドミュージアムについて、黒部川にまつわるものを生かすというようなコンセプトを考えられないかなというので、少し提案をしたいと思っています。私は、今年、37億5,000年前のジルコンが、旧の宇奈月町のある場所で発見されたということ。それから2つ目、それは国会議事堂の中にも使用されている大理石、これは、下立の立石という産地の中で算出される、オニックスマーブル、これは全国的にもない大理石なんですけれども、それを国会議事堂なんかにご利用されておりますし、新しい宇奈月小学校の2階の壁面、あるいは、下立財産区の管理所の壁面にもその大理石が採用されているわけですね。今ありましたように、国土の形成期、あるいは、黒部市の形成期という基盤は、土であったり岩であることが基本的な原点でありますので、今ありましたように、ジルコンなんていうのは、なかなか、皆さんには理解していただけん部分があると思うんですけど、37億5,000年前というのとは、とても想像がつかない長い歴史ですけれども、そういうものをもっともっと、黒部川に興味を持つとともに、黒部川にこういう全国的な、世界的な財産があるということも、もっと黒部市として誇りを持ってアピールをしていただければどうかなということと、大理石も、市長がおっしゃった2階のギャラリーに国会議事堂の中にある写真をつけたり、そういうものに利用されていくと、下立の大理石、下立だけの自慢ではなくて、黒部市の宝としてもこれから言われるとありがたいと思いますので、そういう理解でひとつ考えていただきたいと思っています。

それから、小学校の統合の問題ですけれども、これは4校が統合して5年目になるわけですけれども、行政のほうでもたくさん課題のある中で、また、問題もあるわけでありまして、少し時間がかかる部分もあるんですね。そういうところは、包み隠さず行政のほうでも、それぞれの地域、あるいはそれぞれの父兄に、はっきりと提示をしていかないと、やっていただけるのかなと思うと、なかなか、5年たっても6年たっても、財政的な問題もあってやられないということも実際あるので、今の総合振興計画に出るように、現状の計画を提示していただきたいということと、それと、私、ちょっと残念になるのは、4つの学校が統合してしまったら、ローカル色、地域のいいところが、なかなか、4校の中で統一して発揮されないという面があるんですね。そこらあたりも少し検討をされると、それぞれの地域の方々が共感をして問題を解決することができるのではないかなと思いますので、参考までにどれほどの検討をしていただけるのかなと、こう思っている次第であります。

【市長】

ありがとうございます。

フィールドミュージアムにつきましては、先ほど言いましたように、当然、ジルコンの情報発信とかいろんなデータみたいなものも見られるようにしていきたいと思ひますし、また、オニックスマーブルとか、国会議事堂の大理石は私も見ておりますが、大変すばらしい、そういうものが下立から出ているということも非常に不思議でありますし、下立から昭和の初めにあれだけの量をどうやってだれが下立から持っていこうと決めたのか、どうやって運んだのか、非常に興味のあるところでありまして、そういうようなことも1つの情報として、フィールドミュージアムで発信していけたらと。十字石なども1つの大きな話題といひますか、十字石もたくさん出ているということ、そういうものも当然、情報発信していきたいと思ひます。

それから、宇奈月小学校の統合の話であります、実は、今年の3月に統合後のアンケートをとっております。統合前の生徒を持っておられて、かつ、また統合後、生徒をまだ学校に通わせておられる方々を対象にして、今年の3月に調査を実施しております、先ほど言われたように、確かに成果がどうであったということについて整理するには少し時間がかかるのかなと思っておりますが、その結果、統合に対して賛成か、あるいは、どちらかといえば賛成というようなそういう方が、最初は58%おられたということであります。そして、反対とどちらかといえば反対という方が、合わせて24%、統合前そういう意見だったそうでありますが、統合後はどうでしたかという質問に対しまして、統合してよかったという方が53%に対して、よくなかったという方は、実は11%まで減っているということであります。もう少し、そういう成果について感じられるまでには時間がかかるのかなと思ひますが、少なくとも、かなりの方は、統合前は心配しておったけれども、実際、統合してみたら、思ったよりそんな心配した様子がなかったということでありますので、そういう意味では大変ありがたいなと思っております。

先ほど言ひました他の小中学校の再編については、きちっと計画を、25年度までには東小布施と田家、あるいは、前沢と三日市については平成30年ごろまでには統合したいという計画も明確に出しておりますし、実は、タウンミーティングは今年がここが3カ所目なんです、前の会場では、特に前沢地区の方々からすれば、もっと早くできないかという意見が随分出ておったように感じます。地区の皆さん方の理解と父兄の皆さん方の理解さえあれば、別に、平成30年まで待つことはないの、それがもっと早まるということになっても、私は早まることについてはできるだけ協力していきたいと思っておりますので、ぜひ、そういう議論を、まず、考えるということが大事ではないかなと思っております。

【事務局】

Dさん、よろしいでしょうか。

ほかにございませんでしょうか。

【市長】

時間も限られておりますので、もったいないので、さっき問題提起しました宇奈月中学校のことについて、どなたか何かご意見なり発言なりがあれば、ご意見いただけるならいただきたいなと思ひます。いろんな意見が出てきていると聞いておりますので、その辺の率直なところを、ぜひ、言っただけであればいいと思ひますけど、いかがでしょうか。

【事務局】

どうぞ。

【Bさん】

先ほど意見したBです。

先ほどの件で、私は若栗小学校の話をしたんですが、これは、荻生小学校と統合という形じゃなくて、若栗地区のある程度の児童を、宇奈月小学校のほうに近いのじゃないかということで、宇奈月小学校に入れていただいて、それで、そのまま宇奈月中学校のほうへ来られていた児童が入っていかれるような形をとられたら、多少なりとも宇奈月中学校の児童数も増えるのじゃないかという思いもありますので、その辺のところをひとつお願いします。

【市長】

校区の見直しという議論になるんですが、実際は若栗地区の宇奈月小学校に近い地区からは、宇奈月小学校へ来てくれという話でしょうが、そういうことも含めて、校区については学校の再編ももちろん必要になるんですが、やはり、かなり遠いところも実際ありまして、昔でいう校区と地区と一致していないところが、黒部地区では随分あります。学校のすぐ100メートルほどのところに家があるんだけど、この学校へ行かないで、ほかの学校へ行っているという。それは、校区はきちっと線引きをして、一応、特別なことがない限りはそれを守っていただいているというのが現実でありますので、特に、三日市小学校とか中央小学校など、中央小学校なんかは、荻生からも来ていますし、大布施はもちろん、大布施、荻生、三日市の3地区、荻生でも8号線から下は中央小学校というようなことで線引きをさせていただいておったり、あるいは、前沢と三日市の関係も非常に複雑といいますか、非常に不合理な点もあって、特に、前沢小学校あたりは急激に生徒数が減っている状況があると思います。そういう意味では、いずれは、校区の見直しということも、1つの議論になっていくのではないかなと思います。校区と地区とのそのずれがだんだん出てきて、地域活動がなかなかやりづらくなってきているようなこともお聞きしますので、その辺のことをどうしていくかということも1つのテーマかなと思っています。

【事務局】

Bさん、よろしいでしょうか。

ほかにございませんでしょうか。

【Eさん】

下立のEです。今、学区制のことについて、市長が述べられたんですけど、私は、最近、中学校の野球をよう見に行くんですね。桜井中学と宇奈月中学校、鷹施中学と4校ですわね。それで、バランスを見ますと、宇奈月中学校なんかには、野球部、10人しかおらないんですよ。桜井中学へ行ったら30人からおるんですね。そういうバランスを市長が見ておられるのか、教育委員会でそういう関係の、持っておられるのかわかりませんが、その辺の学区制の問題をもうちょっと真剣に考えていただいて、学校の生徒数、地区の問題も

あるんですけど、そういうことを教育委員会に、もうちょっとしっかりと研究していただくほうがいいんじゃないかと思います。というのは、野球なんか見ていて、野球のことばかり言うんですけれども、桜井中学なんかは生徒がいっぱいいて、宇奈月中学なんかは10人で一生懸命やっておると。その辺を市長に、もうちょっと考えていただいて、今までの学区制じゃなくて新しく学区制を考えるということを早急にしていただきたいと思いますが、その辺よろしく願いいたします。

以上です。

【市長】

ありがとうございます。

宇奈月中学校が、今年132人ですか、桜井中学校が521人、ですから桜井中学校が4倍ほどの生徒数だということで、当然、部活動なんかが、非常に生徒数が減ってくると難しくなってくる。宇奈月中学校の野球部の話も聞いているんですが、これまで19人おった部員が、9人3年生で卒業していったら残りが10人ということだそうですが、その辺が、非常にやっぱり。野球部はまだ続けられております、ところが、サッカー一部になると、サッカー一部が、実は、私も知らなかったんだけど、高志野も鷹施中学もサッカー一部はもうなくなったそうです。生徒数が減っていく上で、その年によってですけれども、いろんな、野球部のほうで人数が多かったり、バスケとかバレーボールとか、いろんな競技が、たくさんおるときはあれもこれももちろんできたんですが、少し偏りが出てきて、サッカー一部が部員不足で休止になっているのかな、廃止ということはなっていないと思いますが、休止してしまっているということがあります。そういう中で、宇奈月中学校も、なかなか部活が成り立たなくなってきたり、あるいは、新しい部活をしたいという生徒がおるけれども、なかなかそれもかなうことができないというようなことで、限られた人数、132人宇奈月中学校はおられますが、当然、男子、女子、分けたら約半分になりますから、その中で、部活が双方ともあるということですから、非常に、平均人数からしてでもそれぞれの部活がみんな成り立たなくなりつつあるのではないかなと思います。

そこで、学校をどうするのかということですが、部活などを中心に学区割、校区を見直すことはなかなか難しいことで、中学校の再編の中で、こういう生徒規模をどうしていくのかというのは具体的な議論になってくるだろうと思います。ぜひ、そういうことを詰めていながら、先ほど言いました黒部市は4つ中学校があります。それを、少なくとも3つにはしたいと考えておりますので、その辺を早く進めることが必要になるのかなと思います。

ちなみに、最初にAさんがデータを出してほしいということで、データをお渡しした中には書いてありますが、魚津市は中学校が2つ、滑川市も中学校が2つ、入善町も中学校が今、3つが2つになりました。朝日町は1つということで、黒部市が4つあるわけですから、当然そういうような問題が出てくるのではないかと思います。そういう意味では、生徒の勉強だけではなくて、スポーツ活動とかあるいは運動会などのそういうふうな状況を考えれば、また、どのように進めていくかというようなことが大事なかなというふうに思います。

【事務局】

Eさん、よろしいでしょうか。

【Aさん】

済みません、度々。小水力発電の件なんです、古い話ですけども、昔、私どもの親父がかかわっておった弥太蔵発電所、地鉄がやっておったわけなんですけれども、それは地鉄が、一応、権利を離しておるはずなんです、その権利関係がどうなっておるかということ、黒部市が第2の小水力発電にチャレンジしようという、あれを例えば、関電とか北電と協議しながら、再生されるというようなプランはございませんか。その点、よろしく願います。

【市長】

ありがとうございます。

弥太蔵のことについては、私は理解しておりません。そこで小水力発電をやれないだろうかということになります。宮野用水の愛本地点でやることに際して、私は小水力発電を実施する上で大事なことは、採算が、ある程度とれるというものでないと、なかなか、教育的観点とか観光資源として生かしていくためとかで小水力発電をやるということについては、私は、黒部市の力の中では限界があるのかなと思います。宮野用水の愛本地点については、ご承知のように右岸から左岸へ今現在あれだけの水量が、落差48メートルほど落ちてきている、その導水管をそのまま利用しようということ考えておりますので、非常に効率的だと思っております。530万キロワットを発電すれば、大体、年間五、六千万ほどの売り上げにならんかなと思っております、そうだとすれば、あと、償却、維持管理等々合わせてコスト計算すれば、これは採算がとれるという判断で、実施したいと思っておりますので、そういう意味では、採算のとれないものについてはなかなか厳しいと思います。

そういう中で、用水とか排水の部分でかなり効率のいいところもあると思っております、そういうところについては、水利権等の問題が解決できれば、できるだけというか、採算のとれるものについては第2、第3と実施していきたいなと思っております。

【事務局】

Aさん、よろしいでしょうか。

済みませんが、最初にお話しした終了予定時間が近づいております。まことに恐縮ですが、あとお一人のご発言とさせていただきたいと思っておりますので、ご理解、ご協力、お願いいたします。

どなたかいらっしゃいませんか。

どなた様もいらっしゃらないようですので、先ほど、Bさんのほうから、テーマ外ということでおっしゃっておられましたが、市長よろしいでしょうか。

じゃ、Bさん、よろしく願います。

【Bさん】

済みません、私ばかりしゃべらせてもらっております。

黒部の新庁舎のことが、1カ月ほど前でしたか、新聞記事として出ていたと思うんですが、どういった記事かという、プランか何かを出して、それに対して地元が道路の整備を含めてやってもらいたいという、意見が出てきたというような話が新聞に出たと思うんです。私、去年のタウンミーティングで、市の庁舎をつくるに当たり、三日市地区にした場合に、道路整備にお金が相当かかるんじゃないかということで、それは、市長さんはかけないようになるということでは言われたと思います。それで、それはそのままかということと、まず、三日市地区に建てられる予定のところへ、入っていく道路で1つ聞きたいことがあります。丸亀製麺さんから市の新しい庁舎へ入っていく道路がありますね。この道路、私、疑問に思うんですが、入っていくと皆さんもわかると思うんですが、途中から民有地にポンと出てきているんですね。もともと道路だったところに民有地が今度出てきて、えらく曲がるような道路になっているんですが、これは、どういう方向にこの道路はなっていくのか、それを詳しく聞かせてほしいと思います。

【市長】

具体的には、お答えは今ここではできないんですが、三日市保育所土地区画整理事業の中で、250軒ほどの地権者の方々の土地を整備しているわけでありまして、進捗については、それぞれかなり差異が出ていますので、そういう曲がった道をつくるということは、あそこは少しカーブしていますが、そういう飛び出しなどはないはずでありますので……。

【Bさん】

あります。

【市長】

現在、その土地の整理がおくれているということだろうと思いますので、その辺については飛び出したようなそういうような道路にならないように、当然、整備されていくと思いますので、確認しておきます。

【Bさん】

でしたら、仕上りの予定の図面か何かを提示していただければうれしいんですが。

【市長】

土地区画整理事業の図面がございますので、その辺については、後日お渡しできるようにします。

【事務局】

Bさん、よろしいでしょうか。

それでは、これまでいろいろなお意見をいただきましたが、予定の時間になりましたので、以上で本日のタウンミーティングを閉じさせていただきます。

それでは閉会にあたりまして、堀内市長から、本日お集まりいただきました皆様へのお

礼も含めまして、ごあいさつ申し上げます。

【市長】

長時間にわたりまして、大変ご苦労さまでございました。

今回のテーマは、小中学校の再編というものが1つ大変大きなテーマとして掲げておりまして、宇奈月地区につきましては、4つの小学校を1つに、平成18年3月に統合されたという大きな実績を持っておられますので、そのことに対する取り組みにつきまして、敬意を表したいと思っておりますし、そこでの実績をもとに、先ほど来言います他の地区での統合等については、ぜひ、理解のほうをしていただけるように、まずは、地区あるいはPTAなどに対して丁寧に説明をして、議論を重ねて計画どおり進めていければと思っておりますので、ぜひ、先進例として、皆さん方からもご協力を賜りたいと思います。

さらに、中学校のことにつきましても、先ほどありましたように、これだけ生徒数が減っていったら、いろんな面で支障が出てきているところがございます。それらをどうするのかということにつきましては、やはり議論を重ねるということが大変大事だと思いますので、どういう規模で、また、具体的にどういう方法でその中学校を再編していくのかということにつきましては、これから教育委員会を中心に、ぜひ、積極的に議論を進めてまいりたいと思っておりますので、今日はあまり出ませんでした。部活が成り立たなくなっているというようなことをいろいろ聞きます、また、新しい競技もやりたいという生徒もいるんだけれども、なかなかやらせてもらえないというような話も出ていますので、そういうことに対して、どうすればいいのかということに対して、ぜひ、忌憚のないご意見を賜りたいと思います。

それから、自然エネルギーにつきましては、宮野用水、愛本地区で、実は、来年度、完成させたいと思っております。ほんとうは、23年、24年の2カ年と思っておったんですが、国の制度等が少し変わってくるんじゃないかと、いろんな心配もございまして、1年前倒しをしようということで、23年度中には完成させたいと思っておりますので、あまり時間がない、もう1年余りたつと、あそこで発電所が動いているということになります。これは、6億円ほどかかる大きな事業であります。国の補助が半分ほど入るんですが、愛本地区にとりましても1つの観光資源にもなりますし、大きな施設にもなるわけでありまして、それを生かして、どういう交流人口の拡大を図るかというようなこと、あるいは建設に伴っていろんな地区に迷惑がかからないように進めてまいりたいと思っておりますので、これも地元とよく相談をさせていただきながら、来年度完成できるように、ぜひ、よろしく願いしたいと思います。

さらに、フィールドミュージアムの話も、昨日も新聞に出ておりましたように、芻橋の話とかジルコンの話とか、さっき大理石の話も出ましたが、水だけではなくて、この黒部川扇状地そのものが、非常に魅力の多い地形なり、いろんな特徴がございますので、それらの現場に足を運んでもらうということが大変大事だと思いますので、そういう取り組みも、今、皆さん方の、いろんなサポートなりご協力がなければできないわけでありまして、ただ、現場へ行っていても、ジルコンを吉田科学館で展示しておったんですが、顕微鏡でのぞいただけではよくわかりません。やはり、ガイドといいますか、説明を聞くと、そして、これがどうして特別なものなのかというようなことを説明する人がおられて、初めて、なるほどすごいんだなと。どうしてもそれが音澤地区といいますか宇奈月地区にあって、

しかも、最も古いものと最も新しい鉱物が共存しているというのは何なのというようなことの説明を聞くと、すごい特別な地域なんだなということも感じたり、大陸移動の大きなロマンみたいな話も感じたりすることになりますので、ぜひ、そういう地域ガイドという言葉もございましたが、やはり、説明を聞いて魅力を感じてもらって、現場へ出てもらうということが大事だと思いますので、そういう意味では、ほんとうに地区のガイドの方々も大変大事だと思っておりますし、その地域に誇りを持ってというご発言もございましたが、ぜひ、みんなで誇りを持ってこの地域のそういう魅力を発信し、また、地域のそういう魅力を磨き上げていきたいと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げて本日のお礼にかえたいと思います。

本日は、大変ありがとうございました。

【事務局】

本日はどうもありがとうございました。

会場にお忘れ物のないように、またお気をつけてお帰りいただきますようよろしくお願いいたします。

なお、先ほどお配りいたしましたアンケート用紙ですが、ご記入の上、会場の入り口の回収箱へ入れていただきますようよろしくお願いいたします。

それでは、本日はどうもありがとうございました。

— 了 —